

**2020新年
メッセージ**

新しい者の特徴

＜コリントの信徒への手紙Ⅱ 4:16～18＞



総会長 趙永哲（大阪北部教会）

希望の年2020年の新年を迎え、在日大韓基督教会（KCCJ）に連なるすべての教会と信徒一人一人の上に神様の御恵みと祝福、平和が豊かに与えられますことをお祈り申し上げます。

新年を迎える際によく引用される使徒パウロの手紙の中で「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」（Ⅱコリ5：17）という御言葉があります。つまり、誰でもキリストと結ばれる人は新しく創造された者である、ということです。ここで、私たちが新しい者、新しく創造された者となる上で重要なのは、「キリストと結ばれる人はだれでも」という点です。「キリストと結ばれる」あるいは「キリストにあって」（in Christ）というのは、使徒パウロにとって重要なキーワードです。

それでは、キリストにあって新しく創造された者、即ち新しい者には、具体的にどのような特徴があるのでしょうか？
まず、私たちの「外なる人」は衰えていくとしても、「内なる人」は日々新たにされて行きます。

聖書箇所16節「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。」 私たち人間には誰でも「外なる人」と「内なる人」の側面を持っています。外なる人は年を重ねるに連れ、弱くなり、衰えて行きます。しかし、私たちに希望があるのは、外なる人が衰えたとしても、内なる人が日々新たにされる余地があるからです。それ故、私たちは常に衰えていく外なる人より、内なる人を重視しなければなりません。この内なる人にはいつも神様が共にいて下さるため苦難が訪れてもむしろ強くなります。従って、私たちが神様を確かに信じるのであれば、外なる人が衰えることで落胆するのではなく、内なる人を通して日々新たにされて行くべきでしょう。

次に、一時の艱難に落胆しないで、それとは比べものにならないほど重みのある永遠の栄光を待ち望みます。

聖書箇所17節「わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。」 私たちの前には誰でも必ず艱難がありますが、神様を信じ、新しい者になると、知恵、信仰、力などを通して逃れる道があることを知るべきでしょう。「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはず

です。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」（Ⅰコリ10：13）

これからの1年間、私たちの前にはこれまで考えたこともない艱難が訪れて来るかも知れません。しかし、私たちが確かに覚えるべきことは、私たちがキリストにあって新しい者となったとすれば、一時的なものに目を奪われることなく、神様が私たちのために備えて下さる永遠のものを待ち望むべきでしょう。そうすると、一時的な艱難は大した問題ではないということを悟る時が来るでしょう。これこそ新しい者の特徴です。

最後に、目の前に見えるものより、目には見えないが、永遠のものに目を注ぐことが重要です。

聖書箇所18節「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」 使徒パウロは新しい者が何に目を注ぐべきなのかについて示しています。

つまり、私たちが目を注ぐべきものは、今日の前に見えるものではなく、見えないものです。今日の前に見えるものは、過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。それでは、今私たちに見えるものとは何でしょうか？それは目の前にある富貴栄華、名誉、権力などがあるでしょう。しかし、目の前に見えないものは、天にある永遠の栄光と祝福です。これこそ新しい時代に新しい者として生きる秘訣であり、新しい者の特徴です。

愛する皆さん！

私たちは誰でも新しい時代を迎え、新しい者として相応しい生活を送ろうとしています。私たちが心から新しい者となるためには、外なる人より内なる人に関心を持ち、一時的な艱難より、永遠の栄光を待ち望むべきでしょう。さらに、目には見えない永遠のものに目を注ぐべきでしょう。

どうか、今年1年の間、使徒パウロを通して与えられた新しい者の特徴の意味を悟り、それを実践することによって、この世だけでなく、永遠の国の祝福を体験して行く私たち一人一人の今年1年間の信仰の歩みでありますことを切に願いつつ、お祈り致します。

讃頌歌委員会より「子どもさんびか」が発行されました。

主の祈り・使徒信条・交読文・十戒 集録
（いずれも韓国語・日本語）
一冊1,000円
お問い合わせは総会事務局へ
電話 03-3202-5398



韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

●B6版変型・1483ページ

●価格：2,500円（消費税・送料込み）

※お求めは総会事務所へ

2020年を迎えた 各会長の抱負

関東地方会長 <金秉喆 牧師> 「恵みと力を受ける関東地方会になりますように」



天使がマリアを訪れて「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」と言われたように主御霊が関東地方会のすべての教会と信徒たちにこのように言われ、また臨まれる1年でありますように。

恵みを受ければ、信仰生活が楽しくなります。私たち、関東地方会が恵みを受けることで楽しく、幸せな地方会になることを願います。さらに、今年は偉大なる神様の大きな力が皆さんの上に注がれますようお祈り致します。神様の恵みを受ければ個人だけではなく、周りにも善い影響を与えることができます。今年2020年には恵みと力を主からいただく一年になると同時に各教会の問題が解決され、さらに全国の在日大韓基督教会に属するすべての地方会と教会聖徒たちに善い影響を与えられる関東地方会になることを心からお祈り致します。

関西地方会長 <林明基 牧師> 「関西地方会創立70周年と共に」 70周年標語:『いのちをはぐくむ主の体をめざして』



1950年12月4日に大阪教会で開催された関西地方会創立総会をもって設立された関西地方会は創立70周年を迎えました。1950年の設立当時は7教会(京都、大阪、大阪北部、西成、川西、武庫川、神戸)でしたが、1985年には西部地方の教会が西部地方会として分離するほど成長しました。

現在は22の教会と2の伝道所で構成されています。これからも関西地方会が総会を中心に小さき者の生きることの基盤であり、生きることの希望となることを願っています。

そのために今、私たちがしなければならないことはたくさんあります。まず、教会の自立化、組織化、そして、次世代の育成のための宣教的方針を立てることは急を要する課題です。何より今の私たちに最も必要なことは私たちが在日大韓基督教会と関西地方会の一員であるという所属意識と連帯感ではないでしょうか。

昨年12月8日に大阪教会で行われた関西地方会創立70周年記念大会は私たちを一つにするきっかけになったと信じています。そのとき、私たちは70周年宣教ビジョンを定めました。

1. 地域社会と積極的に関わり、隣人との連帯を通して共生社会の推進を目指す。
2. 次世代のリーダーを立て、積極的に支援する。
3. 教会にいまに残る差別に目を開き、平等で公正な教会・組織形成を実践する。
4. 民族や出自の垣根を越えて、すべての人々に開かれた、いりどり豊かな信仰共同体を志向する。
5. 平和統一宣教の実践と世界平和の実現に努める。

2020年、関西地方会に属する諸教会が互いに助け合い、新しい歴史をともに造り上げていくことを期待しています。私たちを通してなされる神様の御計画と先達の労苦に思いを致し、新たな歴史の主役として与えられた使命を今一度心に刻み、新年のご挨拶とさせていただきます。

中部地方会長 <鄭守煥 牧師> 「神の証人としての働きを担う地方会」



中部地方会は1934年に中北中会として創立総会を開き、解放後の1965年には中部地方会として新たな歩みを始めた。

2024年は中北中会として90周年、2025年には中部地方会として60周年の節目を迎える。これを機会に中部地方会は地方会史をまとめ、地方会活動の活性化と財政

を立て直す計画を進めている。

まず地方会内の各部(伝道、教育、社会、青年)の役割を明確にして活動の充実化を図ること。財政的に厳しい状況乗り越えるために中部地方会各教会の協力と教友の理解を得ること。何よりも中部地方会を守り、支え導いてくださった神への感謝の思いを中部地方会全教友と共有することである。

中部地方会全体で歴史の中に生きる神の証人としての働きを担えるように、熱心に祈り求め役割を果たしていきたいと願う。

西部地方会長 <李重載 牧師> 精霊によって一つになり、宣教に励む教会として



神様の恵みと平和が総会に属しているすべての教会に豊かにありますように願います。

西部地方会には15ヶ所の教会や伝道所が所属し、500人余りの信徒の小さな群れですが神の家族として一つになって互いに愛し合いながら宣教に励んでいます。

素朴な祈りの課題はいくつかあります。

一つ目は聖霊の慰めによって平和になることです。

教会は神の家族の集まりなので聖霊によって互いに愛し合って神様の宣教の命令を忠実に果たすべきです。しかし、教会が一つにならずいろいろな葛藤や争いが生じることが現実です。教会が平和にならない理由はイエス様を頭として仕えてないからです。高慢なものがいるといつも争いが生じます。自分の信仰や思いこそが正しいと思い相手を裁くと教会の平和はたちまち崩れてしまうことでしょう。西部地方会に属するすべての教会がイエス様のようにへりくだって互いに仕えることで平和があふれるように願います。

二つ目は聖霊の力によって成長することです。

日本宣教は厳しい状況に置かれていますが聖霊の力が与えられると可能性があると信じます。祈りが燃えると聖霊の力によって大胆に福音を伝えることが出来、救いが与えられると思います。宣教のために祈り、口を開き知恵をもって伝道すれば神様がリバイバルを与えてくださるでしょう。西部地方会に属する教会が神様に喜ばれ、人々に褒められ日々成長することを願います。

三つ目は聖霊の励ましによって互いに協力し合うようになることです。

地方会の教会が一つになって互いに協力し合うと、もっと恵みが溢れ大きな慰めと励みになります。地方会のいろいろな行事に参加するたびに思うのですが、もっと多くの信徒が関心をもって参加するように工夫が必要ではないでしょうか。

地方会の行事においては伝道、信仰の成長、信徒との交わりに力を入れ、その時間を通して大きな恵みとチャレンジを受けるようになればと思います。西部地方会に属する教会がすべてのことにおいて協力し合って美しい共同体を造り上げたいと思います。

西南地方会長 <金仁果 牧師> 「祈りによって、活力の教会をめざして」



昨年西南地方会では、別府教会と下関教会に若く立派な牧師が赴任され、現在西南地方会の無牧の教会は、全て無くなりました。そして被災した熊本教会が、神の大きな導きによって美しい聖殿を建築、奉献しました。神の大きな御恵みに感謝いたします。

今年2020年、西南地方会が希望を持って出発します。難しい課題もあります。特に今、韓・日の間が大変な状態になっています。しかし私たちは、全能の主、創造の神を信じながら、この世、すべての万物をおさめられ、主管される正義と平和の主を信じます。

今、教会に必要なことは、強い祈りだと思います。教会が切なる祈りをささげ、霊的に満たされている教会の姿を造って、西南地方会是一つになって行く、このような目標と抱負を立てたいと思います。

祈りは必ず個人の道を開き、家の問題を解決し、教会を復興させます。私たちの国家に神の御心が実現できるように私たちを導きます。西南地方会の全教会が、祈りによって夢と希望を成就する2020年の門を開きたいと思います。各教会がもっと計画的に、集中的に祈りに力を注ぐ地方会的な雰囲気を作り上げましょう。そうすると、教会は自然に活力を回復できます。教会の活力は教会の生命力の証拠です。各教会が愛に溢れ、祈りながら、神の御言葉を学び、伝道をし、礼拝に集中すれば、ここからあふれ出る活力は恵になって、各家庭に流れるでしょう。これが私たちを新しくさせる力になります。このような雰囲気の西南地方会の11の教会になりたいと思います。

全国長老会長 <李大宗 長老> 小さな声に耳を傾け



この度、長老会の会長という大役を受け、畏れをもって主の御旨を求め祈る日々を過ごしています。長老に立てられたときに感じた畏れと感動を思い出し、さらにへりくだる思いでスタートできればと思います。どうか全国の長老任方も、この足りない者のためにも祈っていただき、共に在日大韓基督教会のために、主の御国のために力をあわせ進んでいきましょう。

長老会の役割の一つに総会にとって必要な案件を話し合い、献議案として提出することがあります。総会の状況は客観視できるものばかりではありません。急務だと思える変革を最優先にし、同時に小さな声に耳を傾け、小さな声と共に歩むために祈る、そのことによって主が私たちを一つにしてくださいと信じます。牧師任方も長老会に力をお貸しください。

在日大韓基督教会の歴史は異国の地に生きる寄留の民の歴史であり、そのような私たちと共に歩まれた主の歴史であると信じます。

日帝による植民地支配、解放と分断、入管法の差別、さまざまな苦しみと試練を私たちの信仰の先人たちは経験しましたし、また私たちは新たな時代を迎えようとしています。

しかし、過去にカナダからの宣教師が、朝鮮からの宣教師が説教をし、出身教団が異なる信徒が共に礼拝を捧げてきた歴史は、今となら変わりありません。バラバラでありつつも一つという姿こそキリストの頭なる教会であると信じ、主イエスの十字架を仰ぎ見つめ、日々、感謝と喜びを忘れることなく努めてまいります。

全国女性連合会長 <李炫知 勸士> 和解と平和の通路として



2020年、新年を迎え総会に連なるすべての教会、及び各機関、信徒の皆様の上に、神様の恵みと慈しみが豊かにありますようお祈りいたします。

主の恵みのなかで昨年6月に全国教会女性連合会（以下、全国女性会）は創立70周年を迎えました。

全国女性会70年の歴史は、常に弱者のために仕え、共に祈り苦難を乗り越えてきました。神様はその時代にあったミッションを与え、乗り越える力と知恵も与えてくださる事を信仰の先輩たちを通して学びました。私たちも後世につながる信仰者として使命を全うする全国女性会となることを願っています。

70周年を記念して、「主に接ぎ木された者として～新しい時代を拓く教会女性～」と主題・副題を掲げました。

神様から与えられた今年1年、全国女性会は何事においても積極的に怯まず連帯感を強め、特に今年は東京でオリンピックが開催されるなかで、和解と平和の通路として与えられたミッションに対して積極的に取り組み、ビジョンをもって一步一步確実に前進したいと思います。

教会女性が率先して隔ての中垣を崩し、共感することだけでなく、共感できずとも理解しようとする成熟した信仰に基づいて行動することを願っています。

主にあって同じ思いを抱き、今年こそ和解ができる一年と成りますように祈ります。

青年会全国協議会代表 <李智熙> 主に喜ばれる青年



青年会全国協議会（以下、全協）の活動は、その年の代表や役員メンバーによって全く雰囲気の違う活動となります。今年度は私自身が代表を務めるということで、どんな1年間にしたいか考えてみました。

まず初めに思い浮かんだのは「神様が私たち青年に求めていることが何なのかを考え、それに応える（努力をする）こと」でした。私たちの判断基準を全て神様に合わせ、神様が喜んでくださるかどうかが、役員一人ひとりが常に考えていきたいです。そのためには日々の祈り・賛美・み言葉を重要視し、青年らしく悩んだり立ち止まったりすることがあったとしても、終わりにには神様に褒めてもらえるような1年間にしたいです。

2019年9月より9名の青年が集まりスタートした全協、み言葉に従順する姿勢を忘れずに一歩ずつ歩めばきっと報いてくださる、善い方向へと導いてくださる、全ての思い煩い・悩みを取り去ってくださると確信しながら、主に喜ばれる青年を目標に進めてまいります。

いつも私たち全協の活動を覚えてくださり、応援して下さる牧師任・信徒の方々に感謝いたします。2020年も引き続きよろしくお願いいたします。

<2020年手帳訂正・追加>

●朴憲都牧師 ☐hwppark1@wine.plala.or.jp→

hwppark1@wine.plala.or.jp

●枚岡教会：協力長老 李相萬

527-0055 寝屋川市御幸東町10-2-202 ☎090-7554-1643

●三沢教会 Tel/fax 0176-27-1028

●関西地方会所属牧役者

朴龍洙 2851 Rolling Hills Dr, #183 Fullerton CA 92835

☎+1-714-853-9886

李教錫 638-802 경남 고성군 성내로 71-12 대영apt.201

☎+82-10-2969-0926

朴喜煥 545-0021 大阪市阿倍野区阪南町4-16-10

李元重 606-8203 京都市左京区田中関田町2-26-2-502 ☎080-3841-9121

関西地方会

創立70周年記念大会举行

続いて記念シンポジウムや祝賀会も

関西地方会は、去る2019年12月8日(第2主)午後3時から大阪教会にて、「いのちをはぐくむ主のからだを目指して」を主題とする創立70周年記念大会を、第1部記念礼拝、第2部記念シンポジウム、第3部祝賀会として開催した。

第1部記念礼拝では総会長の趙永哲牧師が「私たちが目指すべきもの」(フィリピ3:12~14)という題目で説教され、楊炯春牧師(曾經総会長)による祝祷で記念礼拝を終えた。

第2部の70周年記念シンポジウムは、「70周年宣教ビジョンを、関西地方会の現実の立ち位置から考える」をテーマに高慶美勲士(関西地方教会女性連合会会長)、梁陽日長老(大阪教会)、李信三兄弟(大阪西成教会)、金鐘賢牧師(前総会長)の4名をパネラーとして発題し、関西地方会70周年の宣教ビジョンをメインテーマとし、地域社会との関わり方、次世代リーダー支援、教会内差別、民族を超越した信仰共同体、平和統一宣教などのサブテーマについて各パネラーから問題点や打開策が熱く語られる中、会場からの質疑応答もあって大いに盛り上がった。

第3部の祝賀会は、関西地方聖歌隊連合の特別讃美で始ま

り、来賓祝辞が日本キリスト教会近畿中会書記の中家盾牧師及び西部地方会長の李重載牧師から寄せられた。関西地方会所属教会女性会が持ち寄った料理を堪能するなど、和やかな祝賀と歓談の時間が持たれた。関西地方会70周年記念大会を主の御恵みの中、協力してくださったすべての教会に感謝します。

特に70周年記念事業の特別企画として、聞き書き「70年の歩みをおぼえて」と題し、関西地方会を永年にわたり牽引してこられた名誉長老や現役長老たちの貴重な証言、教訓、体験話を大会冊子に掲載した。創立70周年の関西地方会の宣教ビジョンを語るとき、信仰の先輩たちの熱い思いを如何に次世代に継承していくか、私たちの使命が問われている。

(70周年記念大会準備委員 丁恵淑)



訪問手記

朝鮮キリスト教連盟訪問記 <3>

大阪教会 鄭然元 牧師

5. 鳳岫(ボンス)教会主日礼拝に参加する

今雨が降る中私たち代表団の到着は「朝基連」委員長の康明哲牧師と関係者、鳳岫教会の宋哲民担任牧師とその他多くの方々の笑顔で迎えられた。

まず接見室での挨拶を終え礼拝堂に入る瞬間に響いてくる、聖歌隊の賛美の声に胸が打たれた。200名余りの信徒が雨の降る中、共に礼拝を捧げるために集まっていた。礼拝の聖歌隊の頌栄で始まり「救い主イエスを」が歌われた後、会衆と共に「わが主のみまに」の賛美を共に捧げた。私たちの大阪教会も姉妹教会と合同礼拝を捧げる時によく歌う賛美であるが、この賛美を選出したのは、代表団に接する鳳岫教会の配慮であると思われた。代表の祈りは女性である許ヨンヒ長老がされ、熱心に祈られた。祈りの途中で信徒による所々の「アーメン」と言う姿が、ごく自然に見受けられた。金スンオク勲士が聖書(出エジプト記17:8~13)を拝読し、続いて30名ほどの聖歌隊が「輝く日を仰ぐとき」を賛美し、力強い賛美の水準もとても高かった。宋哲民担任牧師による「勝利の秘訣」という題目の説教がなされた。イスラエル民族がエジプトを出てからレピテムにおいてアマレクとの戦争が起こった時、モーセが手を挙げて祈る時には勝利するという内容を中心に、主が共におられる時は勝利し、疲れはてた指導者モーセの手を支える、協力者の役割も重要であるということを確認していた。

礼拝に参加する前に、北の教会においても礼拝に献金を捧げるのだろうか?という疑問を持っていたが、牧師の説教の後に献金時間が持たれた。その後、聖歌隊と男女重唱があり、「愛の鐘音」、「上にあるところ」と、合唱は「わたしの歩みを」等、15分ほどの音楽会水準の賛美を通して、礼拝参加者と恵みを分かち合った。鳳岫教会の礼拝の特徴は、信徒がともに捧げる賛美が私たちの教会よりも多いことである。「心は安らぐ」、「助けを求めて」、「主よ、われ祈るは」そして閉会賛美があった。宋牧師の祝祷で礼拝を終えてすぐに挨拶の



時間を持った。まずは「在日大韓基督教会」を代表して、総会長の金鐘賢牧師から鳳岫教会の信徒たちに挨拶の言葉を伝えた。在日同胞の痛みを理解しているかの様な同胞に向けての力強い拍手で歓迎と激励があった。続いて日本キリスト教協議会(NCCJ)を代表し「東アジアの和解と平和委員会」委員長の飯塚卓也牧師と2名の日本の代表者が日本語で準備した謝罪文を読み、総幹事の金性済牧師による通訳があった。長い文章であったが鳳岫教会の信徒たちはとても真剣に傾聴していた。講壇で共に挨拶と交わりをし、すべての行事を終えて礼拝堂から出てくる代表団一行のために「神ともになりました」という賛美を繰り返して歌ってくれた。日本の代表団の手を握る信徒たち、また同胞に向けた明るい笑みと喜びの顔の面々と、再び会おうと繰り返し挨拶を交わした。礼拝堂を歩きながら外に出る時、信徒たち顔を見て感謝の涙が止めどなく流れた。

礼拝においての感想は若い世代の人々が共に礼拝を捧げている事と、当時の朝鮮キリスト教連盟が作り、1990年に発行された「聖書」と「賛美歌」を信徒たちが持っている事であった。講壇の正面は小さな石で作られ、説教壇、聖歌隊席、信徒が座る椅子などは私たちにも見慣れた姿である。

北の地に建てられた鳳岫教会の十字架を見上げ、北朝鮮の住民に十字架の福音を伝える求心点となれるようにと願う心で、私たち代表団は鳳岫教会の信徒たちと共にひとつの心で神様に礼拝を捧げた。